

### 環境調査結果のお知らせ

令和6年9月6日10時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

#### 概況

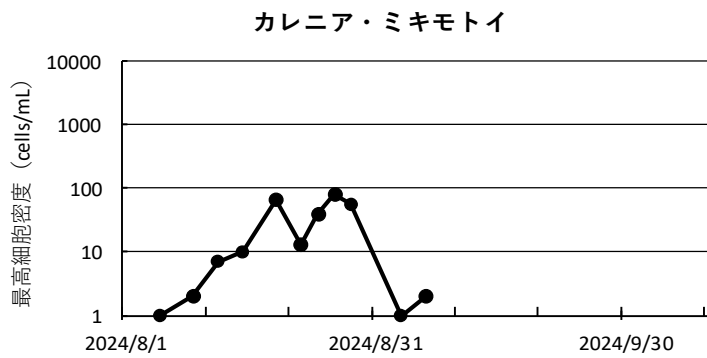
検鏡の結果、魚類に対して有害なカレニア・ミキモトイが最高で2 cell/mL、シャットネラ属が最高で5,900 cells/mL、タカヤマ属が最高で2,500 cells/mL確認されました。福良においてシャットネラ属の赤潮が発生しており、漁業被害が懸念される細胞密度（警戒基準値）を超えていますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

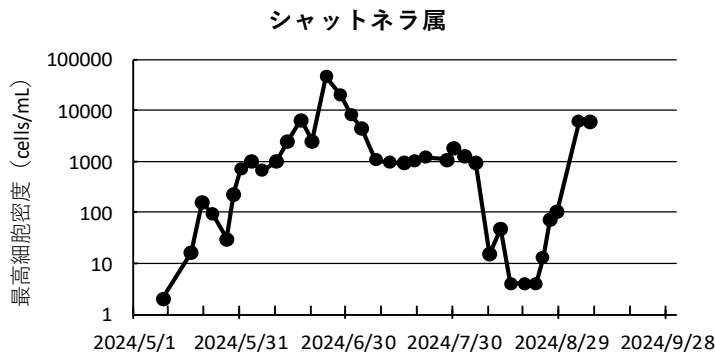
調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	タカヤマ 属	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)				
A 鳴無 (2.7m) 【10:29】	0	30.8	22.9	10.8	0	0	300	1,750
	2	30.5	27.7	10.2	0	2,400	40	60
	5	30.0	29.4	1.4	2	2,950	160	120
	底層 8.5	29.8	30.6	0.1	0	800	2	200
B 中学校前 (2.8m) 【10:37】	0	30.2	21.7	10.8	0	1	1,620	120
	2	30.6	27.1	12.2	0	1	420	900
	5	29.5	28.8	3.9	0	258	0	180
	10	29.8	30.5	0.4	0	1,500	0	0
底層 12	29.4	31.3	0.0	0	52	0	2	
C 目ノクソ (3.5m) 【10:49】	0	30.0	21.4	10.4	0	0	1,780	0
	2	30.4	27.0	12.7	0	1	840	700
	5	29.5	28.7	5.4	0	12	0	1,400
	10	29.4	30.1	2.0	1	21	0	200
底層 15	29.2	31.4	0.0	0	2	0	0	
D 光松 (3m) 【11:11】	0	30.6	22.2	11.1	0	2	1,700	300
	2	30.2	27.4	10.7	0	2	1,640	700
	5	29.4	29.1	5.8	0	8	6	1,100
	10	29.4	30.4	2.0	0	2	0	120
底層 16.5	29.1	31.5	0.0	0	10	0	0	
E 大鹿 (3.2m) 【11:21】	0	30.6	22.7	11.4	0	0	2,000	0
	2	30.0	27.8	9.4	0	0	240	140
	5	29.4	29.1	5.8	0	0	12	1,700
	10	29.4	30.6	1.9	0	3	0	200
底層 16	29.1	31.5	0.0	0	8	0	0	
F 水試小割前 (2.9m) 【11:31】	0	30.4	23.8	10.3	0	1	2,500	80
	2	30.3	28.0	9.6	0	2	740	2,850
	5	29.4	29.3	6.6	0	7	80	2,250
	底層 8.5	29.2	29.8	5.1	0	7	2	780

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	タカヤマ 属	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)				
G 福良 (1.5m) 【11:00】	0	30.8	22.8	12.3	0	6	1,160	100
	2	29.9	27.3	14.2	0	5,900	1,850	40
	5	29.4	28.9	2.5	0	4,800	0	100
	10	29.5	30.6	0.8	0	27	0	200
	底層 11	29.4	30.9	0.2	0	5	0	100

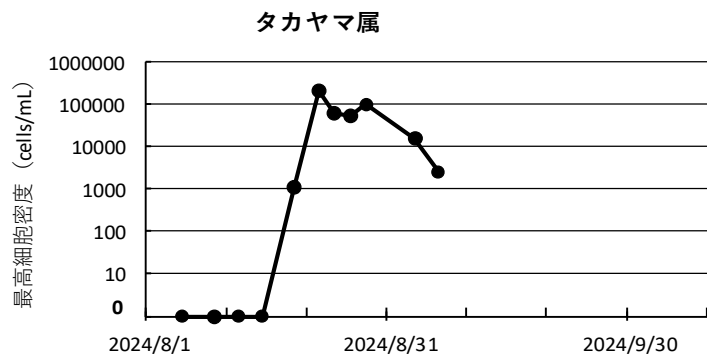
令和6年度 浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイの最高細胞密度の推移

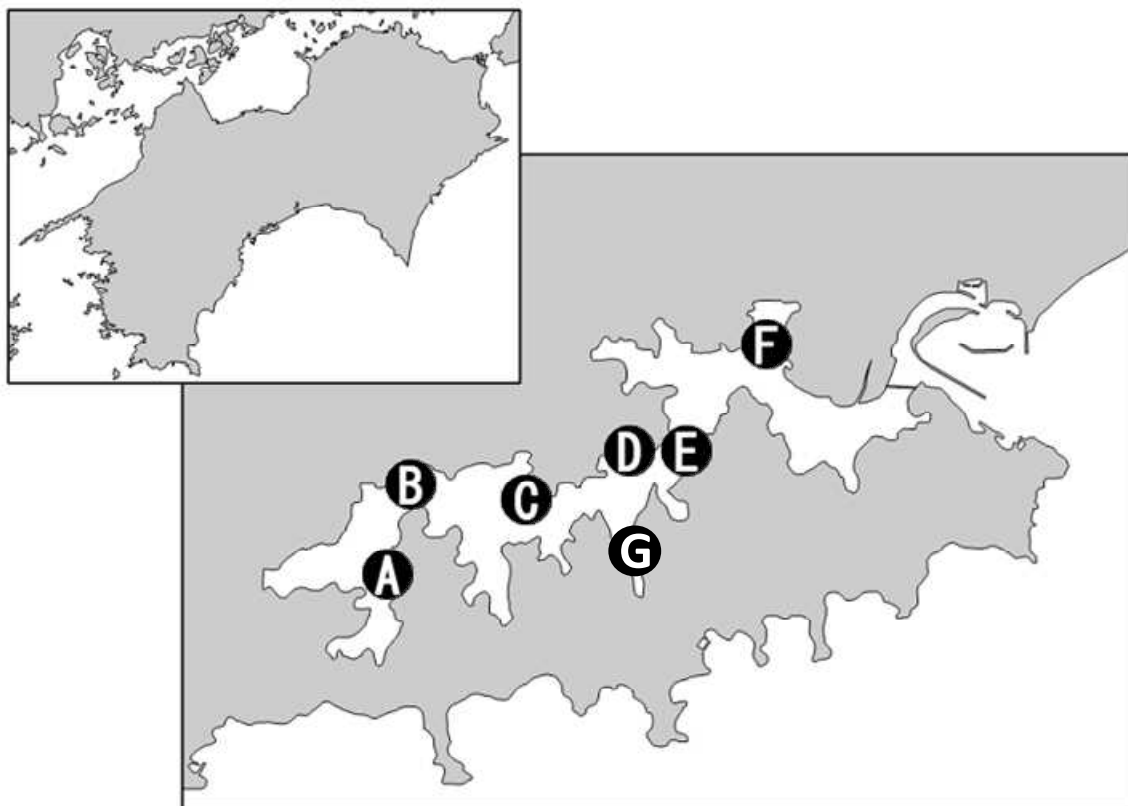


令和6年度 浦ノ内湾におけるシャットネラ属の最高細胞密度の推移



令和6年度 浦ノ内湾におけるタカヤマ属の最高細胞密度の推移





- A: 鳴無  
 B: 中学校前  
 C: 目ノクン  
 D: 光松  
 E: 大鹿  
 F: 水試小割前  
 G: 福良

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。